

# 普遍 light face $\Pi_1^0$ 論理式の構成

橋本 航気

2022 年 8 月 13 日

定義 0.1 (Simpson[1]VII.1.3 普遍 light face  $\Pi_1^0$  論理式).

$$\pi(e, m_1, m_2, \dots, m_i, X_1, \dots, X_j)$$

を  $\Pi_1^0$  論理式で自由変数は表示したものしか持たないとする.  $\pi$  が次の性質を満たすとき, 普遍 light face  $\Pi_1^0$  という.  $\pi$  と同じ自由変数をもつ任意の  $\Pi_1^0$  論理式  $\theta$  について,

$$\text{RCA}_0 \vdash \forall e \exists e' \forall m_1, \dots, X_1, \dots (\theta(e', m_1, \dots, m_i, X_1, \dots, X_j) \leftrightarrow \pi(e, m_1, \dots, m_i, X_1, \dots, X_j))$$

が成り立つ.

このような  $\pi$  は, Kaye[2] 9 章の  $\text{Sat}_{\Pi_1}$  (筆者のホームページに  $\text{Sat}_{\Delta_0}$  に関する PDF があります.) に少しの変更を加えることで得られる<sup>\*1</sup>. もう少し詳しく述べる. まず数変数  $v_0, v_1, \dots$  と集合変数  $V_0, V_1, \dots$ , を区別するためにゲーデル数をわけ,  $\text{form}_{\Delta_0}(x)$  の定義は  $\ulcorner v_0 \in V_0 \urcorner$  を判定できるように変更する.  $\text{term}$  と  $\text{val}$  に変更はなく,  $\text{satseq}_{\Delta_0}$  では (あくまでアイデアだが)

$$\exists u \subseteq_p [s]_i (\text{term}(u) \wedge [s]_i = \ulcorner (u \in V_j) \urcorner \wedge (w = 1 \leftrightarrow \text{val}(u, y) \in X_j))$$

のような 1 行を加えればよい. そのような変更で上手くいくかの証明は, 原理論理式の部分で 1 ステップ手間が増えるだけである.

## 参考文献

- [1] S. G. Simpson, Subsystems of Second Order Arithmetic, Perspectives in Mathematical Logic. Springer-Verlag, 1999.
- [2] Richard Kaye, “Models of Peano Arithmetic”, (Oxford logic guides, 15) (Oxford science publications) Clarendon Press, Oxford University Press, 1991.

---

<sup>\*1</sup> アイデアは TH 大の L さんと S さんに教えていただきました.